



証券コード  
6877



# 第47期 中間事業報告書

平成16年10月1日～平成17年3月31日

# “OBARAの目指すもの”

OBARAは自動車産業の製造ラインにおける抵抗溶接機器の世界最大の供給者であり、さらにIT向け素材における平面研磨装置でも、確かな技術力で確固たる地位を築いています。自動車とIT、グローバルに展開するこの2つの巨大産業で欠かせない企業として、さらなる企業価値の拡大に向けて、以下の3つの「世界」をテーマとして取り組んでいます。

## 世界ナンバーワンのブランド

自動車の抵抗溶接機器の分野では、顧客の生産計画に合わせて柔軟な対応が可能な高度な製造技術力で世界ナンバーワンのブランドを確立しています。また、IT産業向け素材の品質のカギを握る平面研磨装置の分野でも、「スピードファム」ブランドで、広く世界中に浸透しています。今後も「世界品質」を合言葉にさらなる技術力の向上に努め、ブランド価値の向上に取り組めます。

## 世界ナンバーワンのシェア

自動車の抵抗溶接機器の分野では、世界ナンバーワンのシェアを確固たるものとしており、さらに、今後の高い成長が見込めるレーザー溶接機器の分野でも、世界の頂点を目指しています。また、ベアウェーハ分野の平面研磨装置において「スピードファム」は既に世界ナンバーワンの地位を確保しており、さらに戦略分野でのシェア向上をはかることで、平面研磨装置全体でのシェアナンバーワンを目指します。

## 世界に向けた成長戦略の推進

OBARAの成長フロンティアは世界市場です。特に自動車産業においては、既に国内全自動車メーカーを顧客に持ち、世界40カ国余りで活躍しています。しかし、世界には顧客になっていない有力なメーカーも存在します。顧客基盤の拡大と、日本で培った確かな技術に裏付けられた顧客からの信頼をベースに、世界でのシェアを着実に高めることでグローバルに大きく成長していきます。

### CONTENTS

P.1-3 ごあいさつ ● P.4-5 グローバリズム ● P.6-9 セグメント別事業概況 ● P.10-11 連結財務諸表 ● P.12 トピックス ● P.13 コーポレート・プロフィール

株主の皆さまにおかれましては、格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

当中間期においては、当初の予想を上回る増収増益となりましたことをご報告させていただきます。

これは、OBARAグループが取り組んできたグローバルネットワークの強化による成果と、2大供給先である自動車産業、半導体産業の旺盛な需要に支えられた事業環境の後押しという2つの要因によるものです。

### グローバルネットワークの強化で成長を継続

OBARAグループの主力事業である抵抗溶接機器関連事業は、自動車産業の発展とともに成長を継続しており、グローバルなネットワークを構築しています。

OBARAは1987年8月に米国企業を買収し、デトロイトに生産販売拠点を開設し、その後も日本の自動車メーカーの海外進出に合わせて、積極的に事業展開を進めています。現在、国内シェアは6割を越えていますが、海外は15%前後と大きな拡大の余地が残っています。

この上半期には北米の2工場で設備を増強し、ビッグ3の一角のメインサプライヤーとして増産体制を整えました。また、フランス支店を欧州戦略の核と位置付け、東欧向けビジネスの強化のため、チェコ支店を開設し日系の自動車メーカー向けの営業活動を開始しています。

※市場シェアは当社調べによる推定です



## 2大基幹産業である自動車、半導体の需要が 順調に推移

2つ目の事業環境の後押しとしては、当中間期の世界経済が全体的には拡大基調にあり、OBARAグループの2大供給セクターである自動車産業ならびにIT産業の需要がいずれも順調に推移したことが挙げられます。このような経営環境を受けて売上高及び利益の増大を図るべく、販路拡大・新製品の投入に注力し、顧客ニーズに合致した商品の供給に努めました。こうした取り組みの結果が、2ケタの増収増益につながりました。

### 自動車産業の成長

自動車産業については、2004年度の国内の四輪車生産台数は583万台となり、世界の四輪車生産台数も中国などアジアを中心に増加する見通しで、生産ラインの

新設や更新によって、売上が変動するOBARAにとっては好環境が続いています。生産設備の増強も続いており、OBARAの抵抗溶接機器関連事業の売上高は順調に伸びています。

自動車の生産台数は、今後もほぼ5年ごとに世界で約500万台増えるという予測も出ております。OBARAは、南米、ロシアといった今後の成長が見込めるマーケットにも進出を考えており、今後もOBARAの強みであるグローバルネットワークをさらに拡大、強化することで成長を目指します。

### IT産業向け素材研磨事業の裾野が拡大

IT産業においては、半導体素子をはじめとした微細加工技術へのニーズが拡大しています。

より効率的なデバイス生産を可能とするシリコンウェーハの大口径化(300ミリ)に対し、シリコン基板各社が

## [財務ハイライト]



引き続き設備投資を行ったことなどにより、半導体研磨装置への需要も大きな高まりを見せています。

## 高品質な製品で顧客満足を追求し、 企業価値を向上

OBARAグループは、「お客様の必要な時に、お客様の満足する良い品質の製品をお届けする」ことを経営理念として、各専門分野で市場に永続的に評価されるよう努力しております。お客様に待ち望まれる製品・サービスを供給し続けることによる成果の積み重ねが、企業価値を向上させていくと考えています。

## グローバル・ニッチ分野の リーディングカンパニーを目指して

今後も、独自の事業分野で創造性を発揮し、変化する市場において競争力を維持・拡大していくためにグループ一体となった事業展開を強化してまいります。



株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

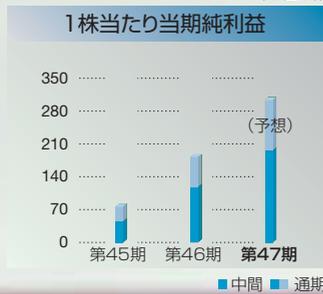
平成17年6月

代表取締役社長

春名邦芳

3

(単位:円)



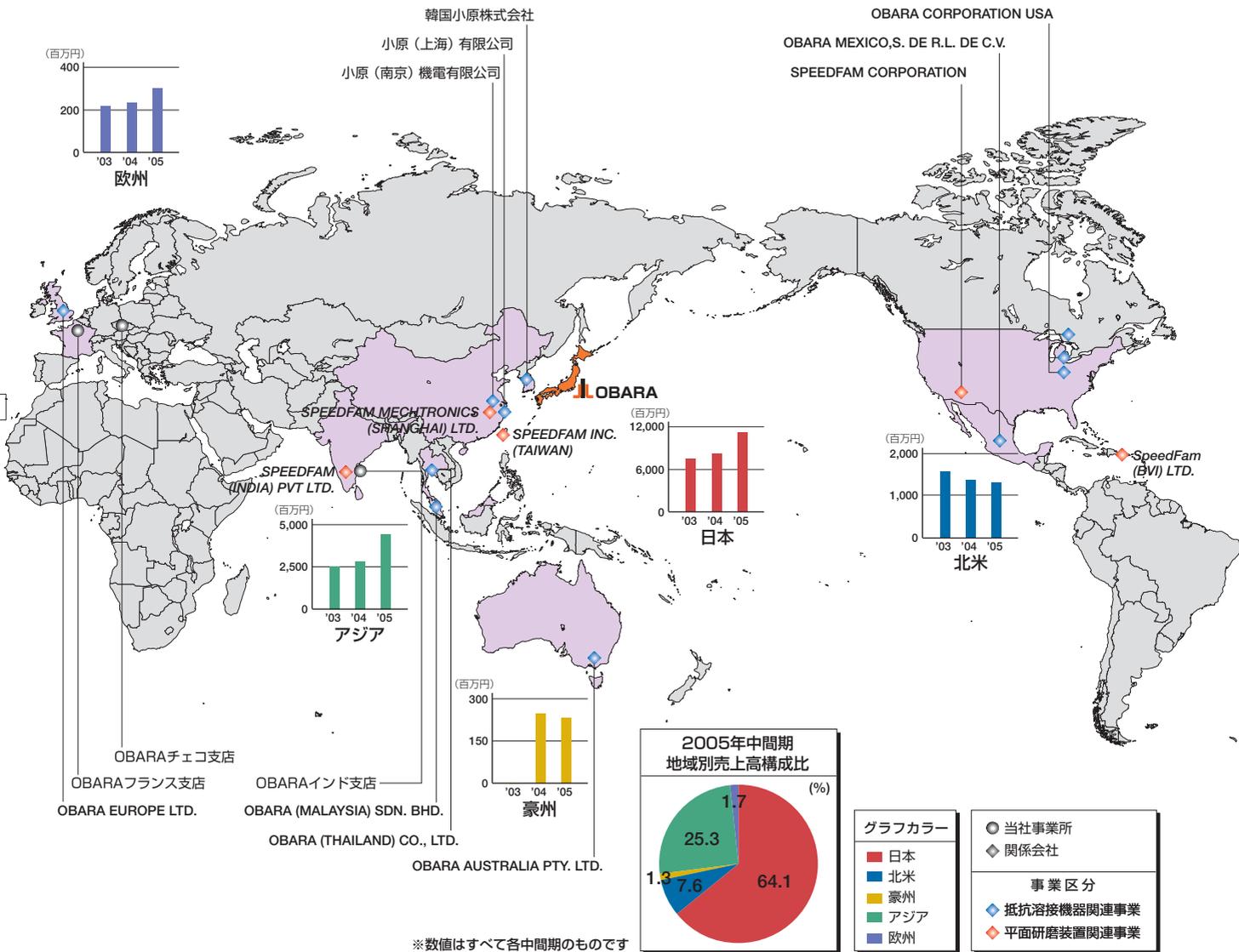
(単位:百万円)



(単位:百万円)



# グローバル・オペレーション



## グローバル・トピックス

### 中国市場

中国への進出は、1994年12月に南京に現地法人を設立したことに始まります。翌95年には自動車産業向け抵抗溶接機の製造工場

を竣工し、日系の自動車メーカー向け製造・販売を開始しました。

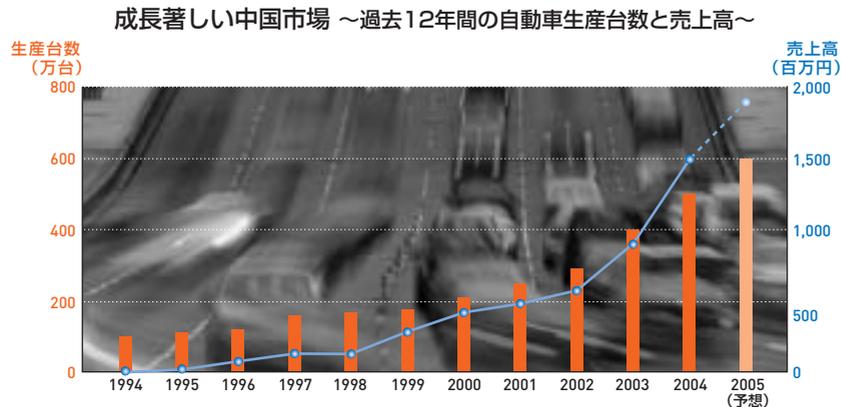
#### 南京および上海での生産が順調に拡大

この5年間で中国での自動車の生産台数は約3倍に拡大しており、2004年度のOBARAの中国拠点における売上高は、日本円換算で約15億円となっています。華南地区を中心に日系の自動車メーカーはもとより、中国の現地企業、欧米の企業などを顧客としています。2010年の中国での自動車の生産台数は、1,000万台

以上とも予想されており、今後も大きな成長が見込めます。

#### 現地化の推進で良好な労使関係を構築

アジアへの日系企業の進出が急速に拡大する中で、労使関係が問題になるケースや人材が流出するケースが発生しています。OBARAの中国での事業責任者は中国系の日本人であり、さらにマネジメント体制の現地化も進んでいます。そのため、2005年春に中国各地で起きた暴動の影響は、日本人技術者の出張が一時的に制限されたことぐらいです。その際には中国から技術者チームが来日して、本社で生産技術を学ぶ機会を設けました。交流を密にすることで、大きな成果をあげることができました。



#### ▲南京工場および上海工場

総勢370名の現地従業員に加えて、日本人技術者も加わり品質の向上に努めています。

## 溶接機器関連事業

	2005年3月中間期	2004年3月中間期	増減
売上高	9,377	7,475	1,902
抵抗溶接機器関連事業	9,188	7,409	1,779
レーザー溶接機器関連事業	188	66	122
営業利益	1,170	768	401
抵抗溶接機器関連事業	1,191	785	406
レーザー溶接機器関連事業	(21)	(16)	(4)

(百万円)

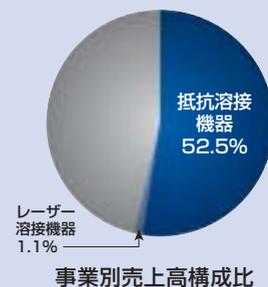
### 抵抗溶接機器関連事業

OBARAが積極的に先行投資を行い、取り組んできたグローバルなネットワークの強化戦略が収益としてあらわれてきています。事業環境は、原材料価格の高止まりなどの悪影響があったものの、新車投入やモデルチェンジに対する自動車メーカーの取り組みが旺盛で、世界的に設備投資は堅調に推移しました。

そうした動きを受けて、国内市場では大きく受注が回復しました。海外案件についても自動車業界の設備投資への旺盛な取り組みを受け、またOBARAグループの世界的な販路拡大戦略の成果が発揮され、事業全体では期初予想を上回る水準で推移しました。この結果、当中間期における部門売上高は91億8千8百万円(前年同期比17億7千9百万円増)となり、部門営業利益は11億9千1百万円(前年同期比4億6百万円増)となりました。

### レーザー溶接機器関連事業

新たな製品ラインナップの開発を行うなど販路拡大に努めた結果、一部で成果は見られましたが、事業環境は依然として厳しく、当中間期における部門売上高は1億8千8百万円(前年同期比1億2千2百万円増)となり、部門営業利益は△2千1百万円(前年同期比4百万円減)となりました。



#### サーボロボットガン

サーボモーターによる加圧および開放コントロールが可能なロボットガンです。溶接する鋼板への加圧通電を行う抵抗溶接の主要機器として、自動車メーカーに広く採用されています。



#### DeviceNetスマートタイマー

DeviceNetに対応したタイマーです。小型ボディに多機能を満載し複雑な溶接条件も管理可能で、進化したデータ編集機能が付いています。

## 国内シェア6割超、圧倒的存在感

自動車の鋼板や事務機器の軟鋼板を高電流で結合させる技術が抵抗溶接です。主力商品である「ガン」シリーズを中心に、国内の全自動車メーカーに納入し、国内シェアの60%以上を獲得しています。車種に合わせてカスタマイズした、高度な溶接機を製造する独自の技術を築いています。この確かな技術力を背景に、すでに成熟している市場において今後70%のシェア獲得を目指して技術向上とコスト削減に努めていきます。



※市場シェアは当社調べによる推定です

## 成長フロンティアは世界市場

世界市場でもトップシェアを獲得しておりますが、シェアは現在15%程度であり、まだ拡大することが可能な市場が残されています。今後の成長に向けて、世界市場での深耕が鍵を握っています。OBARAは国内自動車メーカーの海外進出と同時にグローバルな生産体制を築いてきました。最近では、中国に進出した日系自動車メーカー向けの納入については当社がほぼ独占し、米国ではビッグ3の一角への納入も始めました。今後も他社の追従をゆるさない国際競争力を十分に発揮し、世界シェア30%の獲得を目指していきます。



※市場シェアは当社調べによる推定です



### レーザー事業について

抵抗溶接に加え、造船・建設業界向けにアーク溶接、電子機器・IT業界向けにレーザー溶接事業も展開しています。特にレーザーによる溶接技術は、電子部品などの精密で高度な溶接技術を要する微細加工においてその優位性を発揮し、応用範囲も多岐にわたります。当社は現在溶接業界で注目

を浴びているYAGレーザー溶接技術をいち早く導入し、少ないエネルギーでの加工、柔軟なラインの構築、消耗部品の削減とレーザーの安定的発振を可能としました。OBARAの売上構成比においてレーザー溶接機器が占める割合は1.1%ですが、今後最も高い成長が見込める分野です。

## 平面研磨装置関連事業

	2005年3月中間期	2004年3月中間期	増減
売上高	8,132	5,442	2,690
営業利益	1,151	422	728

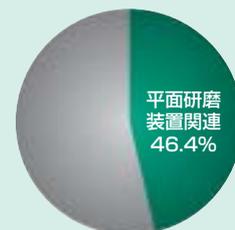
(百万円)

### 平面研磨装置関連事業

IT産業全体では活発な動きが続いたものの、一部では在庫調整が見られるなど、設備投資需要には一服感が感じられました。こうした事業環境ではありましたが、シリコンウェーハ、音楽用ハードディスク基板など微細加工技術が必要なエレクトロニクス製品の裾野は大きく広がっています。当グループにおいては、昨年度から持ち越したシリコンウェーハ各社からの受注分の出荷が国内外ともに順調に進みました。また、期初に懸念したほどの新規受注の落ち込みとはならず、事業全体では期初予想を上回る水準で推移しました。

半導体デバイス工程向け端面研磨装置、ストリームエッジの販売拡大に注力し、当中間期には計3台の納入実績となりました。デバイスプロセスにおける生産性向上装置の一つとして、今後、本格的な量産製造ラインへの採用が期待されており、大きな収益源の一つになるものとして期待しています。

この結果、当中間期における部門売上高は81億3千2百万円(前年同期比26億9千万円増)となり、部門営業利益は11億5千1百万円(前年同期比7億2千8百万円増)となりました。



事業別売上高構成比



両面研磨装置

シリコンウェーハ、水晶、酸化物、シリコン、化合物ウェーハ、ハードディスク基板などの高精度デバイスの超精密平坦加工に用いられる研磨装置です。



エッジポリッシャー

半導体の素材であるベアシリコン用エッジポリッシング装置です。

### 微細加工が必要な先端素材の研磨技術のリーディングカンパニー

OBARAは、最先端のエレクトロニクス製品を構成する各種先端素材の研磨技術におけるリーディングカンパニーです。特にシリコンベアウェー八向けのエッジポリッシャー(端面研磨装置)の市場占有率は90%以上となっています。その他にも、水晶、酸化物ウェー八、ハードディスク基板をはじめとした多くの分野の超平坦化加工技術でノウハウを蓄積しており、世界の先端企業から注目を集めています。

### エッジポリッシャー技術をデバイス分野に展開

今後大きな成長の可能性を秘めているのが半導体デバイス分野です。半導体デバイス向けエッジポリッシャーは、今までOBARAが実績を培ってきたベアウェー八向け業界に対し新規のマーケットであり、大幅な市場拡大の可能性があります。現在、大手数社のデバイスメーカーでエッジポリッシャーの導入コストと歩留まり向上効果の関係について検証している段階です。

半導体は300ミリ中心へと急速に移行しており、大口径化に伴う製造効率の向上は一層注目されており、OBARAのエッジポリッシャー技術は業界で大きな注目を集めています。



### スピードファム社

子会社であるスピードファムでは、片面研磨装置、両面研磨装置、端面研磨装置の開発から製造・販売までを行っています。独自のラッピングおよびポリッシング技術により、薄い素材やもろい素材も加工することができ、ソリや歪みも発生しません。さらに短時間、低コストでの加工といったお客様の生産性向上

ニーズに応える製品の開発に注力しています。

1984年には、洗浄部門をスピードファムクリーンシステムとして独立させました。また同年の韓国を皮切りに、台湾、インド、シンガポール、中国、米国、英国に進出し、グローバルな事業展開を図っています。



## 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当中間期 (平成17年3月31日現在)	前中間期 (平成16年3月31日現在)	前期 (平成16年9月30日現在)
<b>資産の部</b>			
流動資産	22,010,990	15,308,862	18,383,344
現金及び預金	4,356,564	3,257,947	3,039,349
受取手形及び売掛金	10,917,860	7,156,386	9,600,636
有価証券	34,684	182,961	23,413
たな卸資産	5,698,008	4,011,767	4,710,180
その他	1,245,109	847,443	1,302,787
貸倒引当金	△241,237	△147,643	△293,023
固定資産	9,890,745	10,125,072	9,869,486
有形固定資産	7,464,508	7,672,665	7,658,375
建物及び構築物	2,353,978	2,671,762	2,563,747
機械装置及び運搬具	1,816,543	1,404,788	1,699,101
土地	2,760,664	3,175,618	3,037,141
その他	533,321	420,495	358,384
無形固定資産	206,830	239,987	232,317
投資その他の資産	2,219,406	2,212,418	1,978,793
投資有価証券	1,020,969	1,187,327	932,519
その他	1,411,236	1,265,891	1,272,357
貸倒引当金	△212,799	△240,800	△226,082
資産合計	31,901,735	25,433,934	28,252,831

■ 売上が大幅に増加したことにより、受取手形及び売掛金の残高は増加しております。また、受注残の増加に伴い、たな卸資産の残高も増加しております。

(単位:千円)

科目	当中間期 (平成17年3月31日現在)	前中間期 (平成16年3月31日現在)	前期 (平成16年9月30日現在)
<b>負債の部</b>			
流動負債	13,117,717	9,244,378	11,013,365
支払手形及び買掛金	5,723,313	4,202,640	4,854,470
短期借入金	4,290,680	2,253,223	3,185,422
1年以内償還予定社債	660,000	660,000	460,000
1年以内返済予定長期借入金	187,492	384,863	291,825
未払法人税等	551,310	383,468	654,336
賞与引当金	484,581	346,488	495,608
その他	1,220,339	1,013,694	1,071,700
固定負債	3,132,437	3,612,854	3,504,551
社債	920,000	1,280,000	1,200,000
長期借入金	717,278	904,931	801,988
退職給付引当金	194,083	162,379	260,252
役員退職慰労引当金	999,146	984,542	999,376
その他	301,930	281,000	242,934
負債合計	16,250,155	12,857,232	14,517,916
<b>少数株主持分</b>			
少数株主持分	545,459	336,934	435,660
<b>資本の部</b>			
資本金	1,925,949	1,925,949	1,925,949
資本剰余金	2,370,998	2,370,998	2,370,998
利益剰余金	11,152,469	8,557,677	9,437,440
その他有価証券評価差額金	245,745	186,928	181,373
為替換算調整勘定	△540,513	△801,657	△573,975
自己株式	△48,529	△129	△42,531
資本合計	15,106,120	12,239,766	13,299,254
負債、少数株主持分及び資本合計	31,901,735	25,433,934	28,252,831

■ 売上の増加に伴い、仕入も増加し、その債務である支払手形及び買掛金の残高も増加しております。また、受取手形及び売掛金、たな卸資産が増加したことや有形固定資産への設備投資のため有利子負債の残高も増加しました。

## 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当中間期 (平成16年10月1日から 平成17年3月31日まで)	前中間期 (平成15年10月1日から 平成16年3月31日まで)	前期 (平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで)
売上高	17,506,426	12,904,156	28,248,684
売上原価	12,088,240	9,210,469	20,144,064
売上総利益	5,418,185	3,693,687	8,104,620
販売費及び一般管理費	3,096,440	2,502,136	5,350,764
営業利益	2,321,744	1,191,550	2,753,855
営業外収益	134,277	96,637	190,399
営業外費用	90,185	117,180	141,726
経常利益	2,365,836	1,171,007	2,802,529
特別利益	168,100	1,524	132,866
特別損失	16,713	23,254	642,499
税金等調整前中間(当期)純利益	2,517,223	1,149,277	2,292,895
法人税、住民税及び事業税	574,297	460,270	913,155
法人税等調整額	12,602	△81,338	△415,049
少数株主利益	122,752	93,657	176,504
中間(当期)純利益	1,807,571	676,687	1,618,285

財務指標	当中間期	前中間期	前期
売上高経常利益率(%)	13.5	9.1	9.9
ROE(%)	12.7	5.9	13.5
ROA(%)	6.0	2.8	6.3
流動比率(%)	167.8	165.6	166.9
固定比率(%)	65.5	82.7	74.2
株主資本比率(%)	47.4	48.1	47.1
デット・エクイティ・レシオ(%)	44.9	44.8	44.7

## 連結剰余金計算書

(単位:千円)

科目	当中間期 (平成16年10月1日から 平成17年3月31日まで)	前中間期 (平成15年10月1日から 平成16年3月31日まで)	前期 (平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで)
<b>資本剰余金の部</b>			
資本剰余金期首残高	2,370,998	1,895,998	1,895,998
資本剰余金増加高	—	475,000	475,000
資本剰余金中間期末(期末)残高	2,370,998	2,370,998	2,370,998
<b>利益剰余金の部</b>			
利益剰余金期首残高	9,437,440	7,941,198	7,941,198
利益剰余金増加高	1,807,571	676,687	1,618,285
中間(当期)純利益	1,807,571	676,687	1,618,285
利益剰余金減少高	92,542	60,208	122,042
配当金	92,542	56,835	118,669
従業員配当	—	3,373	3,373
利益剰余金中間期末(期末)残高	11,152,469	8,557,677	9,437,440

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当中間期 (平成16年10月1日から 平成17年3月31日まで)	前中間期 (平成15年10月1日から 平成16年3月31日まで)	前期 (平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	808,138	642,846	192,482
投資活動によるキャッシュ・フロー	△461,295	△367,379	△757,256
財務活動によるキャッシュ・フロー	623,363	639,220	883,201
現金及び現金同等物に係る換算差額	41,683	△38,737	21,480
現金及び現金同等物の増減額	1,011,890	875,951	339,908
現金及び現金同等物期首残高	2,133,131	1,793,223	1,793,223
現金及び現金同等物 中間期末(期末)残高	3,145,021	2,669,174	2,133,131

## 「J-Stock銘柄」\*に選定



当社株式は、株式会社ジャスダック証券取引所(以下ジャスダックとする)の発表を受け、平成17年5月2日付で「J-Stock銘柄」\*に選定されました。

当社がジャスダックの上場銘柄を代表する銘柄と位置づけられたことは、株主の皆さまにとって企業価値向上につながる意義深いことであり、非常に光栄に感じております。

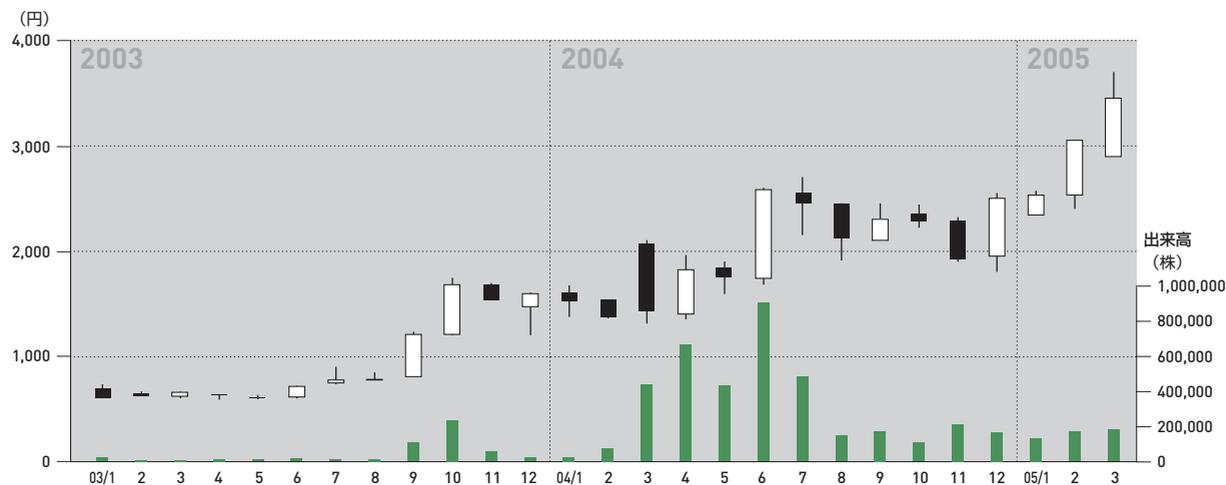
なお、これに伴い新聞等での株価掲載欄は、従来の「電気機器」欄から「Jストック」欄に変更されています。

今後も、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまのご期待に応え、ジャスダック証券取引所を代表するような企業となるべく、引き続き事業発展に努めてまいります。

\*ジャスダックは、時価総額及び利益額などについて一定の基準を満たした銘柄を「J-Stock銘柄」として選定し、同銘柄で構成され、時価総額加重平均方式により算出される株価指数を「J-Stock Index」として発表している。



株価チャート (株式分割調整後)



## コーポレート・プロフィール

## 会社概要 (平成17年3月31日現在)

社名	OBARA 株式会社
英文名	OBARA CORPORATION
本店所在地	神奈川県綾瀬市大上4丁目2番37号
設立	1958年12月
資本金	1,925,949,120円
主要な事業内容	抵抗溶接機器・各種溶接機器の製造販売等
従業員数	324名(連結 1,431名)

## 役員 (平成17年3月31日現在)

代表取締役会長	小原 博
代表取締役社長	春名 邦 芳
専務取締役	持田 律 三
常務取締役	渡辺 俊明
取締役	服部 宏
取締役	小原 康 嗣
取締役	春名 真 人
取締役	周澤 健
常勤監査役	谷内 博
監査役	中根 宏
監査役	久保寺吉兵衛

(注)監査役中根宏氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特別に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

## 子会社および関連会社 (平成17年3月31日現在)

OBARA CORPORATION USA  
 OBARA EUROPE LTD.  
 小原(南京)機電有限公司  
 小原(上海)有限公司  
 韓国小原株式会社  
 OBARA (THAILAND) CO., LTD.  
 OBARA MEXICO,S.DE R.L.DE C.V.  
 洋光産業株式会社  
 倉光合金工業株式会社  
 OBARA (MALAYSIA) SDN.BHD.  
 OBARA AUSTRALIA PTY.LTD.  
 スピードファム株式会社  
 佐久精機株式会社  
 スピードファムクリーンシステム株式会社  
 SPEEDFAM INC.  
 SPEEDFAM (INDIA) PVT LTD.  
 SpeedFam (BVI) LTD.  
 SPEEDFAM MECHTRONICS (SHANGHAI) LTD.  
 SPEEDFAM CORPORATION

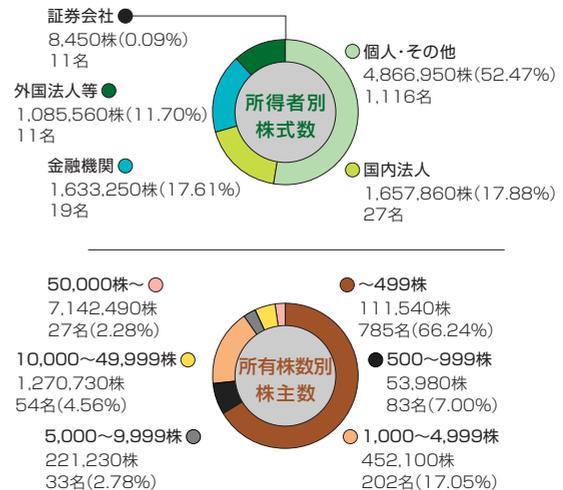
## 株式の状況 (平成17年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	20,821,600株
発行済株式総数	9,275,280株
株主数	1,185名 (前期末比497名減)

## 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
有限会社馬込興産	1,455,480	15.80
小原博	1,404,060	15.24
OBARA従業員持株会	572,610	6.21
ゴールドマン・サックス・ インターナショナル	491,200	5.33
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	440,900	4.78
株式会社UFJ銀行	411,000	4.46
小原康嗣	271,560	2.94
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505019	202,200	2.19
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	192,600	2.09
ザチエース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エスエル オムニバス アカウント	192,000	2.08

## 株式分布状況





<http://www.obara.co.jp/>



## OBARA CORP.

この中間事業報告書に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〔本 社〕 〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上四丁目2番37号  
管理部 TEL:0467-76-2000

## 株主メモ

決算期	9月30日
定時株主総会	毎年12月
期末配当基準日	9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して 定めます。
配当金受領株主確定日	毎年9月30日及び中間配当金の支払いを 行う場合は3月31日といたします。
名義書換代理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:03-3323-7111 (代表) (受付時間:平日9:00~17:00) TEL:0120-87-2031 (名義書換用紙請求専用フリーダイヤル、自動 音声案内) ホームページURL: <a href="http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html">http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html</a>
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞 ただし、商法特例法第16条第3項に定める貸 借対照表及び損益計算書に係る情報は、当社ホー ムページ(URL <a href="http://www.obara.co.jp/">http://www.obara.co.jp/</a> ) において提供します。

2100  
当紙配合率100%再生紙  
を使用しています

